

生協創設者で社会活動家

賀川豊彦の業績再評価

生活協同組合の創設者として知られるキリスト教社会運動家・賀川豊彦（1888～1960年）の活動や思想を受け継ぎ、現代に生かす方策を考えるシンポジウムが13日午後1時半～5時半、県公館で開かれる。賀川が貧しい人々の救済を始めてから、今年で100年。シンポを企画した関係者は「賀川の業績を再評価した上で、助け合っている心が貧困や格差を解消する手がかりになるのでは」と指摘している。

神戸市に生まれ、4歳で両親と死別した賀川は、神戸学生だった21歳の時から市内の貧しい町に住み込んで、キリスト教の伝道とともに医療奉仕や職業紹介などを始めた。1923年にあった関東大震災では神戸から東京に向かい、食料や寝具などを配給したほか、生涯を労働、農民運動などに捧げ、ノーベル平和賞の候補者にも挙げられた。

シンポは生協や教育関係など約40団体で作る「神戸プロジェクト実行委」が企画。テーマは「神戸から地球へ 共に生きるために」で、前知事の貝原俊民氏が

13日シンポ 貧困・格差解消ヒントに

「阪神・淡路大震災と『賀川精神』」、ノンフィクション作家の野田正彰氏が「心のケア 100年の時空を超えて今、求められる課題」と題してそれぞれ講演する。

また、学識者を迎えて、現代社会における国際的連帯をテーマに意見を交わす。実行委は今後、功績をまとめた漫画の出版や記念式典を開くなどして100周年事業を盛り上げる。

実行委の西義人顧問は「経済的格差が広がるなど、現代社会は賀川の生きた時代と似てきており、改めてスポットを当てる価値がある」と話している。

奉仕活動などこれまでの業績が再評価されている賀川豊彦



参加無料
で、先着30
0人。問い合
わせなどは同
実行委事務局
(078・3
71・3555
0)。